

第2回 用瀬地域振興会議 日程

日 時 平成27年5月13日（水）
午後3時～
場 所 用瀬町民会館 2階 会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議題・報告事項

(1) 鳥取市版総合戦略、人口ビジョンについて・・・・・・・・・・資料1

(2) 総合支所整備（耐震化）の基本的な考え方について・・・・・・・・資料2

(3) 地域の課題・問題点について

◆ バス（江波・赤波循環線）の乗車状況について・・・・・・・・資料3

◆ 流しびなの里をめぐるエコツーリズム推進について・・・・・・・・資料4

(4) その他

4 各課報告

5 次回日程について

開催予定日 7月 日（ ） 時

6 閉 会

鳥取市人口ビジョン骨子（案）

1 人口の現状分析

- ☆鳥取市の総人口は2005年の201,740人をピークに人口は減少の一途をたどり2010年の国勢調査では197,449人と、すでに本格的な人口減少局面を迎えている。
- ☆1人の女性が一生に産む子どもの平均数である合計特殊出生率は2013年で1.55と鳥取県全体の水準を下回り、低出生率の状態を継続している。
- ☆社会的増減は2005年以降10年連続で、転出が転入を超過する社会減の状態を継続している。
- ☆近年の年齢階層別人口移動は大学進学時等を含む15～19歳をはじめ、就職時以降の20～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳の各階級において転出超過となっている。

2 将来人口の推計

- ☆国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計によれば、2010年の国勢調査時の197,449人の人口は、今後急速に減少を続け、2040年には156,135人（約21%減少）、2060年には119,998人（約39%減少）となる見込みである。
- ☆15～64歳の生産年齢人口はその構成比が2010年の63.1%から2040年には52.6%まで減少し、65歳以上の高齢者人口は23.2%から36.7%へと大幅に増加する見込みである。



3 人口の将来展望

＜人口増加に向けた新たな目標設定＞

- ☆合計特殊出生率1.55（2013年）が2020年に1.8（国目標より10年前倒し）に、2030年には2.07（人口置換値）に上昇するケースを仮定。
- ☆今後10年をかけ移動率を約0.5倍に逡減し、その後一定すると仮定。

※社人研・鳥取県推計準拠

目標	2040年：165,639人
人口	2060年：139,077人

＜政策の基本目標＞

- I 次世代の鳥取市を担う‘ひとづくり’
- II 誰もが活躍できる‘しごとづくり’
- III 賑わいにあふれ安心して暮らせる‘まちづくり’

「鳥取市総合戦略」に基づく政策の加速・前進

鳥取市将来推計人口の試算

1 社人研推計による鳥取市の将来推計人口

将来推計人口	2040年：156,135人 2060年：119,998人
--------	----------------------------------

※社人研：国立社会保障・人口問題研究所

2 鳥取市の将来推計人口のシミュレーション結果

社人研推計をもとに、合計特殊出生率と社会移動の状況を変化させたシミュレーションを3パターン実施
なお、合計特殊出生率は最新の数値1.55（2013年）を用いて推計。
※鳥取県推計における基準人口は2013年10月1日現在の直近人口から起算したものである。

シミュレーションA

①③社人研
②鳥取県推計準拠

【推計条件】

①基準人口：2010年10月1日現在（国勢調査）

②合計特殊出生率：1.55（2013年数値）が2020年に1.8（希望値）に、2030年には2.07（人口置換値）に上昇すると仮定

③社会移動の状況：今後10年をかけて移動率を約0.5倍に減らし、その後一定

2040年：165,639人
2060年：139,077人

シミュレーションB

①社人研 ②市仮定値
③鳥取県推計準拠

【推計条件】

①基準人口：2010年10月1日現在（国勢調査）

②合計特殊出生率：1.55（2013年数値）が今後も続くと仮定

③社会移動の状況：今後10年をかけて移動率を約0.5倍に減らし、その後は社会増減ゼロ

2040年：163,014人
2060年：133,568人

シミュレーションC

①社人研
②③鳥取県推計準拠

【推計条件】

①基準人口：2010年10月1日現在（国勢調査）

②合計特殊出生率：1.55（2013年数値）が2020年に1.8（希望値）に、2030年には2.07（人口置換値）に上昇すると仮定

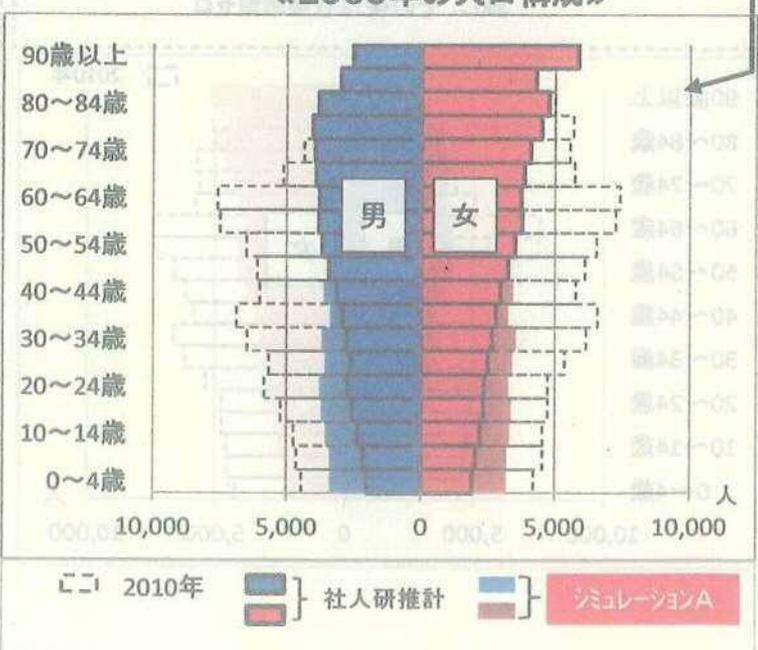
③社会移動の状況：今後10年をかけて移動率を約0.5倍に減らし、その後は社会増減ゼロ

2040年：171,976人
2060年：153,594人

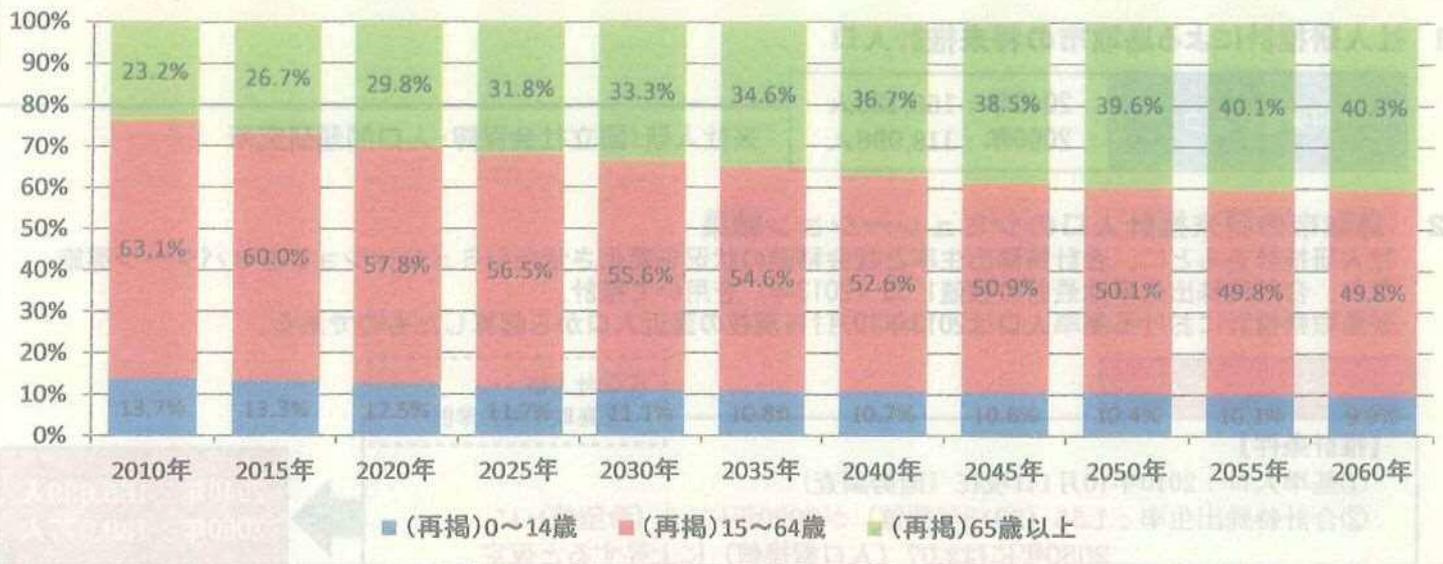
＜総人口の推移＞



＜2060年の人口構成＞



〈参考：シミュレーションAによる年齢3区分別人口の推移〉



(単位：人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0~14歳	27,249	25,494	24,552	23,666	24,069	23,781	23,693	22,729	21,746	20,790	20,011
15歳から64歳	124,525	115,338	107,694	101,575	95,878	91,162	84,577	79,569	75,836	73,032	70,741
65歳以上	45,675	51,398	55,473	57,111	57,434	56,935	57,370	56,608	54,592	51,670	48,325
合計	197,449	192,230	187,719	182,352	177,382	171,878	165,639	158,907	152,175	145,492	139,077

〈2060年の人口構成〉

◇シミュレーションB◇ 総人口133,568人

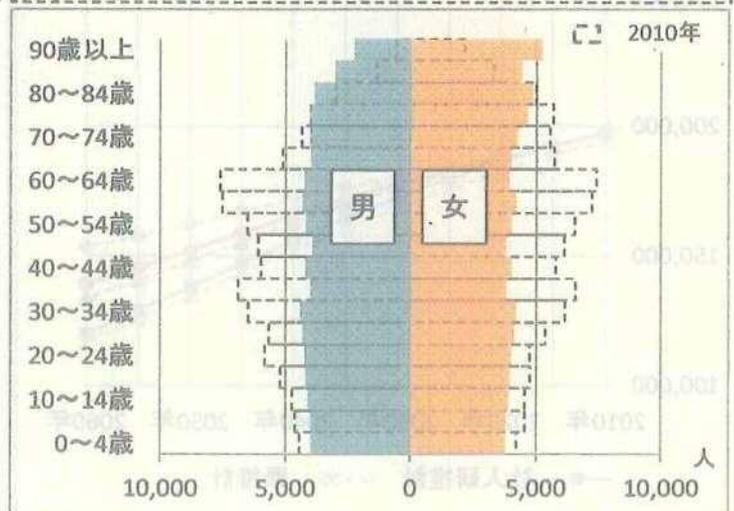
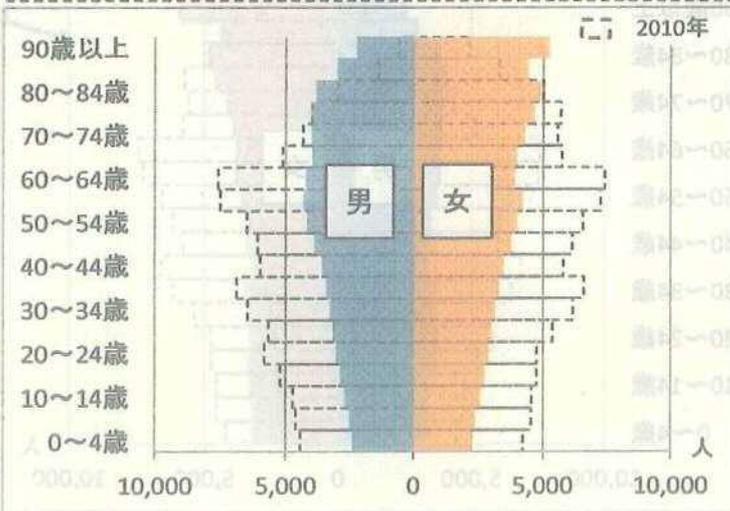
◇シミュレーションC◇ 総人口153,594人

◇合計特殊出生率：1.55(2013年数値)が今後も続くと仮定

◇合計特殊出生率：1.55(2013年数値)が2020年に1.8(希望値)に、2030年には2.07(人口置換値)に上昇すると仮定

◇社会移動の状況：今後10年かけて移動率を約0.5倍に還元し、その後は社会増減ゼロ

◇社会移動の状況：今後10年かけて移動率を約0.5倍に還元し、その後は社会増減ゼロ



1 基本的視点

本格的な人口減少時代が到来する中で、地域の特色や地域資源を活用し、将来を担う‘ひとづくり’や誰もが幅広く活躍できる‘しごとづくり’、安心して暮らし続けることができる明るい‘まちづくり’など『いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる、自信と誇り・夢と希望に満ちた鳥取市』の実現に向けた戦略を総合的に進めます。

2 構成

本市の他にはない優位性(強み)や特性を活かし、次の3分野を基本目標に設定します。

I 次世代の鳥取市を担う‘ひとづくり’

II 誰もが活躍できる‘しごとづくり’

III 賑わいにあふれ安心して暮らせる‘まちづくり’

3 基本目標と施策例

I 次世代の鳥取市を担う‘ひとづくり’

将来を担う若い世代を中心とした人材育成は本市の更なる飛躍と発展の原動力となります。
郷土を愛し、地域の活性化に寄与する次世代をリードする人材の育成、確保を進めます。

【具体的な施策例】

①教育の充実・郷土愛の醸成

- 家庭・地域・学校の連携によるぬくもりのある教育環境の創出と郷土愛の醸成
- 特有の自然、文化等を身近に楽しむ郷土教育の充実
- 親子を支える地域ネットワークの強化
- 鳥取環境大学等と連携した若者の地元進学・就職の充実

②結婚・出産・子育て支援

- 「すごい鳥取市」婚活サポートセンターなど新たな出会いの支援と情報発信
- 待機児童ゼロ継続に向けた保育サービス充実
- 保育料の軽減など経済的負担の軽減
- 子育て中の女性に対する就職支援の実施
- ワーク・ライフ・バランスの促進と取組の周知

II 誰もが活躍できる‘しごとづくり’

本市の経済再生と雇用の創出を図るためには人口減少等に左右されない地域の特性を活かした産業基盤の確立が求められます。

地元産業の底上げと地域経済の活性化を図り、誰もが幅広く活躍できる‘しごとづくり’を進めます。

【具体的な施策例】

①経済再生・成長産業の創出

- 成長分野における中核企業となり得る企業への支援
- 地元経済の発展と適正な産業構造の構築に向けた戦略的な企業誘致の推進
- 産学官連携による新産業の創出とネットワークの強化

②地域資源を活用した産業全般の底上げ

- 地域特有の観光資源、農林水産物等を活用した新商品の開発、ブランド化
- 6次産業化の取組強化と農工商等其他分野との連携
- 環日本海諸国との経済交流促進と地元企業支援

③地域経済における人材還流と育成強化

- 新規創業やリーダー・後継者育成等に対するキャリア教育の経営支援
- 高齢者の就労支援や技能の活用
- 農業担い手確保など新規就農のための各種支援
- 留学生受入支援による企業の国際化や競争力強化

III 賑わいにあふれ安心して暮らせる‘まちづくり’

山陰海岸ジオパークをはじめとする豊かな自然、その自然が育む農林水産物や地域に根差した文化など独自性の高い魅力を活かし、若者に魅力ある、人が賑わい、安心して暮らせるまちづくりを進めます。

【具体的な施策例】

①地自産業を活かした交流推進

- 「砂像のまち鳥取市」等独自ブランドを活かした滞在型観光の推進と交流人口の拡大
- 特色ある農林水産物、加工品の情報発信及び新たな地域ブランドの育成・販路拡大
- 文化芸術を活かした体験交流や活動支援

②移住定住による人の好循環化

- 県外の若者・中高年の呼び込み・戦略的な情報提供と相談窓口におけるマッチング支援
- 空き家情報の把握等定住創出に向けた環境整備
- 地域住民や団体等による移住定住者を支えるネットワークづくり

③住み良い環境づくり

- 中山間地域での特色を活かした地域生活の再生と買い物支援など多機能な拠点創出
- 路線バス等地域公共交通の利用促進
- 中心市街地活性化の賑わい創出支援と空き店舗の活用による新たな拠点整備
- 定住自立圏等周辺の自治体や県外自治体との地域間連携の推進による地域の活性化

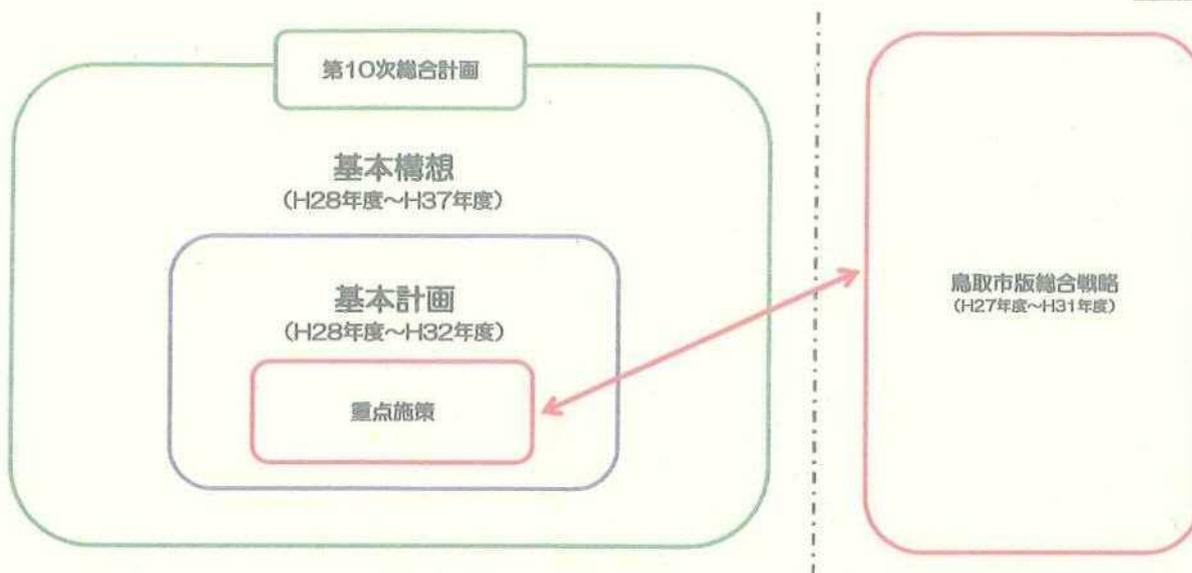
第10次鳥取市総合計画及び鳥取市総合戦略策定スケジュール(案)

資料3

年度		H27年度												H28年度																									
		4月			5月			6月			7月				8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
第10次総合計画	基本構想	骨子案			策定作業			提案・案作成						パブリックコメント			答申案作成			答申			議案作成			議案提出→議決			施行										
	基本計画				策定作業			素案			提案・案																												
鳥取市総合戦略	人口ビジョン	○人口現状分析 ○人口推計			策定作業			市民意識調査等助案			素案			○人口ビジョン策定																									
	総合戦略	骨子案			策定作業			中間まとめ			○総合戦略策定																												
市議会	定例会																																						
	全員協議会							○策定状況等報告						○総合戦略・人口ビジョン報告 ○10次総策定状況等報告						○10次総策定状況等報告						○10次総報告													
	総務企画委員会							○策定状況等報告						○総合戦略・人口ビジョン報告 ○10次総策定状況等報告						○10次総策定状況等報告						○10次総報告													
市民参画事業等	総合企画委員会				○第3回(5/1)						○第4回(7月中旬)			○第5回(8月中旬)						○第6回(11月中旬)			答申																
	地域振興会議				○地域振興会議			○地域振興会議						○地域振興会議			○地域振興会議																						
	地域づくり懇談会							7月						11月																									
	地方創生フォーラム																			○開催(11月下旬予定)																			
	市民WG				適宜開催																																		
	関係機関・団体等				商工会議所青年部、 大学生等意見集約																																		
	その他意見等				インターネットモニター、移住 定住者アンケート等意見集約																																		
庁内策定会議	賑わいのある「すごい！鳥取市」創生本部会議	○第1回(4/27)						第2回(7月中旬)			○第3回(8月中旬)			○第4回(10月上旬)			○第5回(11月中旬)																						
		○総合戦略骨子案について ○人口ビジョン骨子案について						○総合戦略中間報告			○総合戦略・人口ビジョン報告			○10次総と総合戦略のすり合わせ			○10次総答申案審議																						
庁内部会等	総合計画・戦略PT(課長レベル)	○総合戦略について ○人口ビジョンについて ○10次総について																																					
	若者定住・安心子育て部会及びPT 経済再生・雇用創造部会及びPT																																						
H28予算							○サマーレビュー			○当初予算説明会(10月上旬)			○当初予算要求締切(11月下旬)																										

○『第10次鳥取市総合計画』と『鳥取市版総合戦略』について

資料4



※ 総合戦略は第10次総合計画基本計画の重点施策とする。KPI(重要業績評価指標)はH31(2019)年度までを検証期間とする。

○『第10次鳥取市総合計画』と『鳥取市版総合戦略』の計画期間について

年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	
鳥取市総合計画			基本構想(H28~H37)										
		10次総策定					11次総策定						12次総策定
		基本計画(H28~H32)											
鳥取市版総合戦略		策定				検証・再定							
		総合戦略(H27~H31)											

※ 総合戦略最終年度H31(2019)年度の検証を踏まえ、H32(2020)年度へ繋げていく。

地域振興会議資料

平成 27 年 5 月 13 日

財産経営課

用瀬町総合支所整備（耐震化）の推進について

今年度、用瀬町総合支所の耐震化に向けて次の考えを基に調査・検討を行います。

1 現況

	建築年	築後 (H27)	構造	耐震対策	各階面積		延床面積	敷地面積	
用瀬町総合支所	S52	38年	RC造4階	Is値0.37	1階	627.65㎡	1,684㎡	6,995㎡	市有地
					2階	471.27㎡			
					3階	479.82㎡			
					中3階	25.74㎡			
					PH	79㎡			

- ・庁舎は耐震診断結果が基準¹ (Is 値 0.6) を下回っています。
- ・庁舎、延床面積 1, 684 ㎡内、未使用面積が約 430 ㎡ (2F : 150 ㎡、3F : 200 ㎡、PH : 79 ㎡)
- ・一部土砂災害警戒区域内

2 近隣施設の状況

施設名	建築年	築後	構造	各階面積		延床面積	敷地面積	
① 用瀬町民会館(中央公民館)	H6	21年	RC造2階	1階	600㎡	1,213㎡	2,457㎡	市有地 (隣接:体育センター 2,622㎡)
② いきいき交流センター	H11	16年	S造3階	1階	339.6㎡	1,018㎡	763㎡	市有地
③ 用瀬地区保健センター	H15	12年	S造1階	1階	2,799㎡	2,799㎡	8,965㎡	市有地

庁舎近隣施設で活用（庁舎との複合化含む）が可能と思われる施設は上表の3施設が考えられますが、「用瀬町民会館」は土砂災害特別警戒区域（別紙参照）に一部入っているため「いきいき交流センター」「用瀬地区保健センター」の2施設の検討が良いと思われます。

3 今後の進め方

現庁舎の耐震改修、新築、既存建物の活用について、整備費及び維持管理経費などの比較検討を行います。

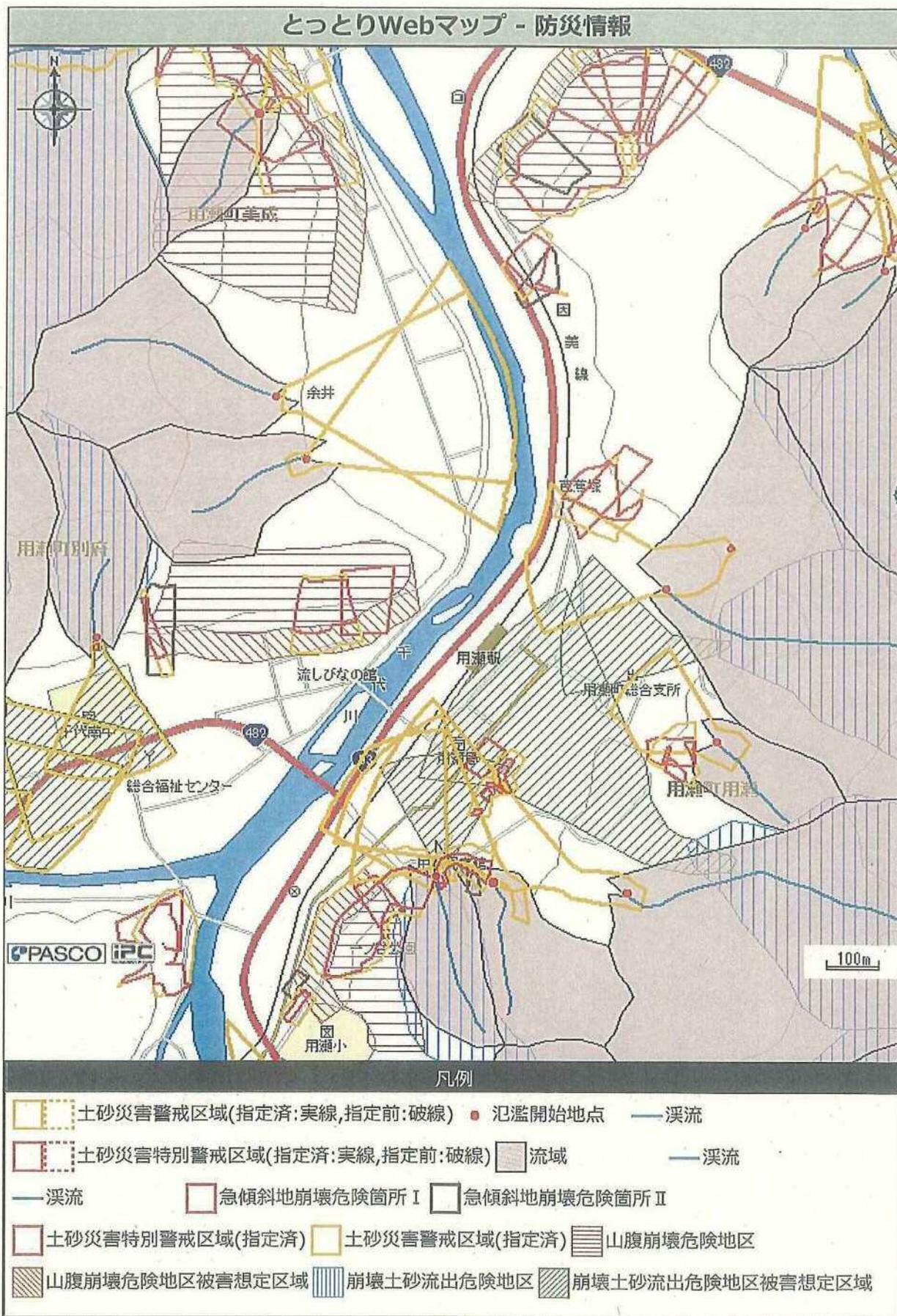
- ・防災機能の向上
- ・ユニバーサルデザイン等の環境づくり
- ・利便性の向上
- ・施設の効率的利用など

<予定>

平成 27 年 5 月～12 月 総合支所耐震化基礎調査を実施

平成 28 年 1 月～ 調査結果を基に整備方針の検討

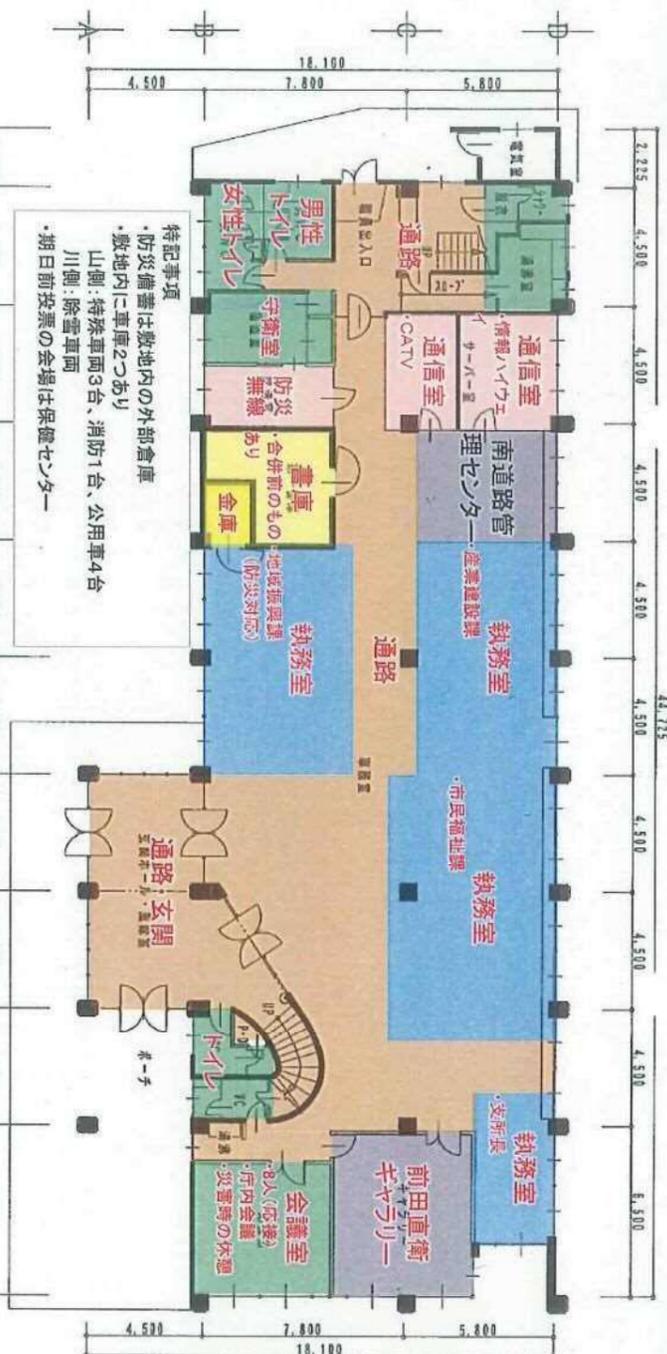
¹ Is 値：構造耐震指標といわれ、当該建築物に耐震性があるかないかを図る指標
Is 値が 0.6 以上のときに、その建物が安全であるといえます。



印刷日時: 2015/05/08 9:56 最終更新日時: 2014/08/24 16:45

Copyright 2013 Pref tottori. All Rights Reserved.

用瀬町総合支所(1/3)



(本庁舎1階)

- 執務室(執務室、受付スペース、待合スペース)
- 倉庫(書庫、倉庫)
- 諸室(会議室、相談室、印刷室、守衛室、休憩室、トイレ等)
- 通路(玄関、廊下、階段、エレベーター等)
- 防災(災害対策スペース、備蓄倉庫、防災無線室、通信室)
- ※災害対策スペースは平時は会議室や市民交流スペースとして使用

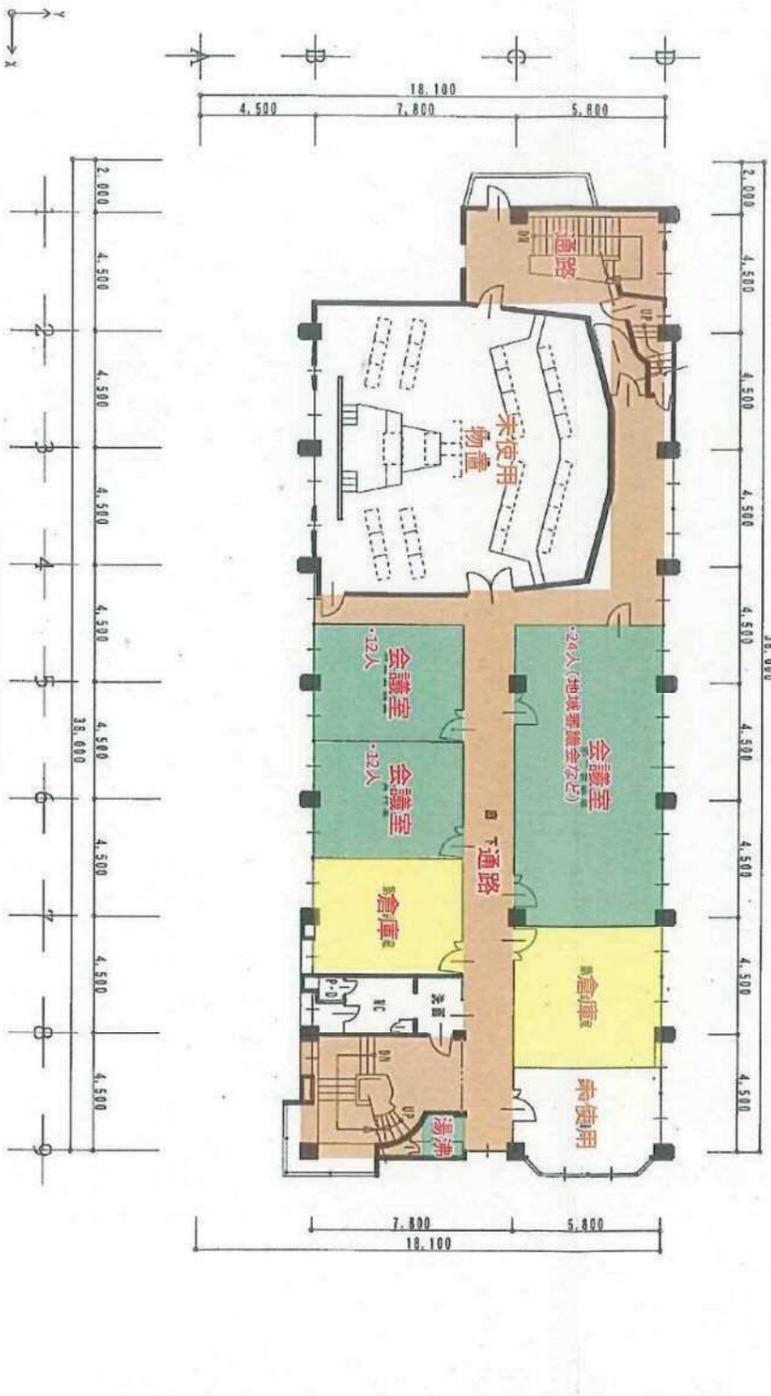
1	建築年	築後	構造	耐震対策	各階面積	延床面積
用瀬町総合支所	S52	36年	RC造4階	Is値0.37	1階 627.65㎡ 2階 471.27㎡ 3階 479.82㎡ 中3階 25.74㎡ PH 79㎡	1,684㎡

用瀬町総合支所(2/3)



(本庁舎2階)

用瀬町総合支所(3/3)



(本庁舎3階)

3階平面図 1/200

H26江波赤波・用瀬循環線 便ごとの乗車状況

(単位:人)

定時便

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
循環線	20	23	38	27	26	26	36	25	24	22	17	28	312	
用瀬小発	0	0	23	0	0	0	30	0	5	6	14	13	91	* 夏期18:30/冬期17:30
赤波発	14	30	24	26	3	19	21	14	25	21	15	8	220	* 夏期18:41/冬期17:41
合計	34	53	85	53	29	45	87	39	54	49	46	49	623	
循環線	21	20	21	22	18	20	22	18	22	19	19	22	244	運行日:平日
用瀬小発	21	20	21	22	18	20	22	18	22	19	19	22	244	運行日:平日
赤波発	21	20	21	22	18	20	22	18	22	19	19	22	244	運行日:平日
合計	63	60	63	66	54	60	66	54	66	57	57	66	732	
循環線	1.0	1.2	1.8	1.2	1.4	1.3	1.6	1.4	1.1	1.2	0.9	1.3	1.3	
用瀬小発	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	0.2	0.3	0.7	0.6	0.4	
赤波発	0.7	1.5	1.1	1.2	0.2	1.0	1.0	0.8	1.1	1.1	0.8	0.4	0.9	
合計	0.54	0.88	1.35	0.80	0.54	0.75	1.32	0.72	0.82	0.86	0.81	0.74	0.85	

予約便

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
用瀬駅発	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	8	乗車区間は大村公民館~家興
用瀬発	1	0	0	1	0	1	1	1	2	2	0	1	10	乗車区間は用瀬~旭ヶ丘
合計	2	1	1	2	1	2	2	2	2	2	0	1	18	
用瀬駅発	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	8	運行日:平日
用瀬発	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	9	運行日:火、木、土
合計	2	1	1	2	1	2	2	2	1	2	0	1	17	運行日:火、木、土
用瀬駅発	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0	0	0	0	1.0	
用瀬発	1.0	0	0	1.0	0	1.0	1.0	1.0	2.0	1.0	0	1.0	1.1	
合計	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	2.0	1.0	0	1.0	1.1	

流しびなの里をめぐるエコツーリズムの推進

用瀬町は、室町時代から継承されている「用瀬のひな送り」(県の無形民俗文化財に指定)を今に伝えている「流しびな行事」をはじめ、清流「千代川」でのラフティングやカヌー体験、赤波川溪谷のおう穴祭りなど、自然を活用した各種のイベント行事を行っています。

町内には古くから山岳信仰の山として広く知られている中国名山100選の「三角山」と、県自然環境保全区域内にある国土地理院一等三角点の「洗足山」が隣接しています。近年、都市住民を中心としたジオツーリズムの高まりやトレッキング、ハイキング、キャンプなどの自然体験が注目されています。本町は、平成21年度から洗足山の登山道の整備や修復の取組みを重点的に行ったことにより、今では四季を通じて用瀬山系に県内外から多くの登山者が訪れています。

また、優れた自然景観を有する三角山から洗足山に至る山系は「用瀬アルプス」の愛称で親しまれており、現在、この一帯を町内の環境保全活動団体が縦走路の整備・補修に積極的に取り組み、山頂から日本海まで見渡せる眺望や植生の豊かさなども加わり、これまで以上に登山者を魅了する山として変わりつつあります。

本町は「人と自然が調和した文化のかおり高いまち 用瀬町」を新市域振興ビジョンの将来像として掲げており、これからの本町の発展を見ずえる上では、これらの優れた自然景観と上方往来で栄えた「用瀬宿」の御茶屋本陣跡や番所跡、水車の設置跡が残る梅花藻が繁茂する「瀬戸川」、本町を訪れた多くの俳人・歌人が詠んだ句や歌を石碑として残した「文学の小径」、などの貴重な文化・歴史資産を守りながら一体的に取り組み、自然散策と環境保全の「エコツーリズム」を推進していくことが中山間振興につながることを考えます。

このように、特色ある豊かな自然景観や貴重な歴史資産を活用した交流事業の実施や、行事・イベントなどを有効的に関連付け、本町の更なる「賑わいのある地域づくり」を推進するため、地域住民で組織する実行委員会(仮称:用瀬町エコツーリズム実行委員会)を組織し、町内をゾーン分けして以下の事業に取り組みます。

《用瀬アルプス(愛称)・赤波川おう穴群ゾーン》

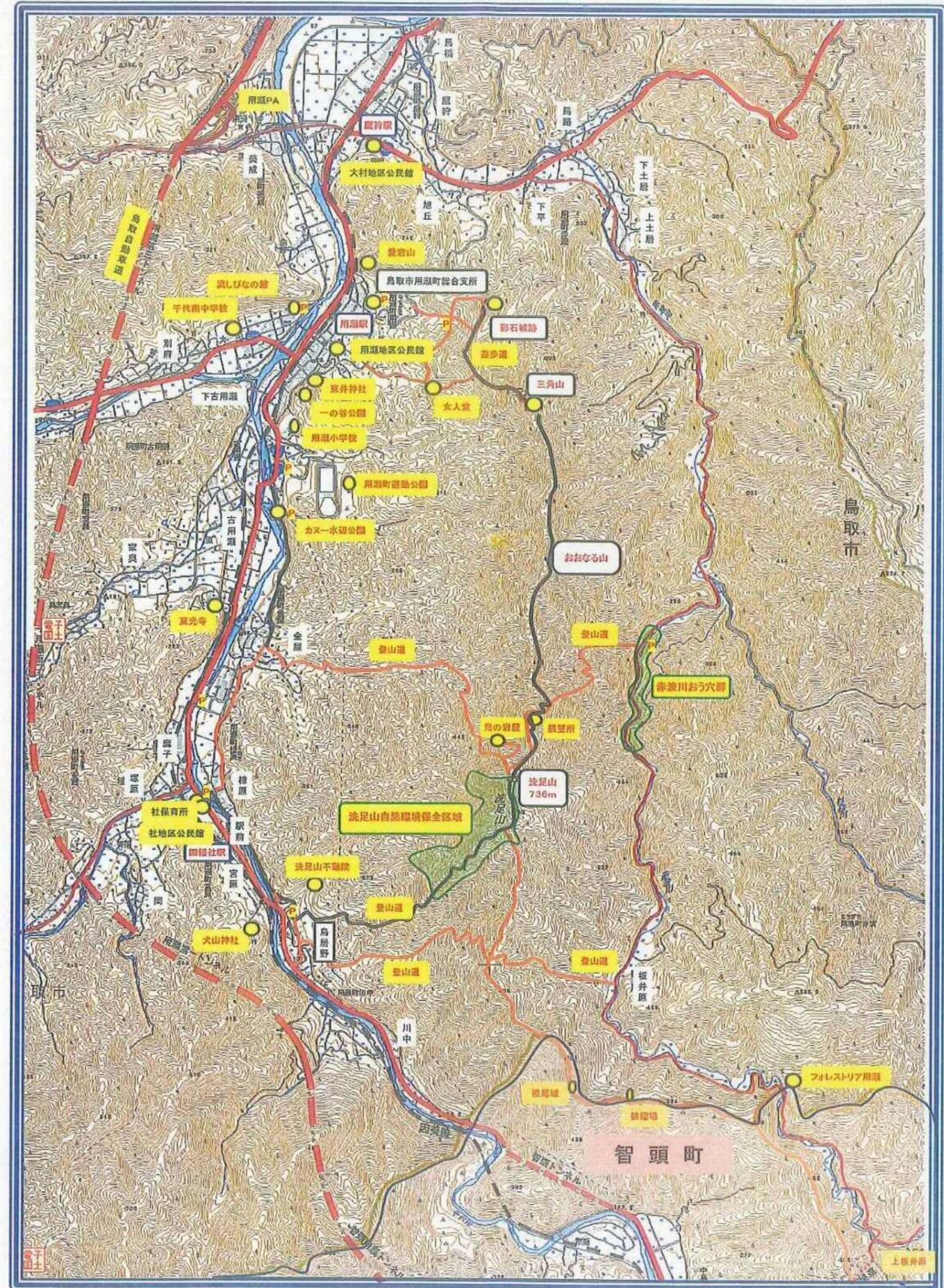
- ① 山の日(平成28年8月11日実施)の制定を契機に「用瀬アルプス縦走登山会」を検討する。
- ② 社地区の洗足山登山会・用瀬地区のお山さん(三角山神社大祭)・大村地区のおう穴祭りを「用瀬三大山祭り」として位置づけ、PRを強化する。
- ③ エコツーリズム案内マップを作成し、安全にトレッキングするための情報を提供する。
- ④ 登山道の案内看板・道標を整備するとともに、登山道等を維持補修する。
- ⑤ 登山道沿いに樹木名板を整備し、森林学習の場としての活用を図る。
- ⑥ 観光客が快適に安全に活動できる施設整備を検討する。
- ⑦ エコツーリズムに携わる団体及び人材を育成する。
- ⑧ 自然観察会等エコツーリズム事業を企画する。

《流しびなの館・用瀬宿ゾーン》

- ① 用瀬宿の散策マップを作成する。
- ② ふれあいの水辺(流しびな行事会場)の保全活動を充実する。
- ③ 文学の小径(歌碑・句碑)の保全活動と歴史文化学習を充実する。

《清流千代川ゾーン》

- ① カヌー公園を中心に水辺の野外活動と自然体験学習を充実する。
- ② 千代川の清流を活かしたラフティングや川遊び、自然観察会・保全活動などを



総合支所 月間行事予定表

5 月

日	曜日	行事名	時間	場所	内容
9	土	社地区公民館・耐震補強及び内部改装工事完成竣工式典	10:00～12:00	社地区公民館	竣工式典他
11	月	春の全国交通安全運動(～20日)			
17	日	第28回もちがせ流しびなマラニック大会	9:30～12:30	流しびなの館周辺	
29	金	金婚・ダイヤモンド婚記念祝賀会	10:00～	河原町中央公民館	用瀬町対象 金婚7組(うち4組参加) ダイヤモンド婚10組(うち4組参加)

6 月

日	曜日	行事名	時間	場所	内容
1	月	人権パレード	13:00～	町内一円	「人権擁護委員の日」に合わせ町内を回り人権啓発広報を実施